

令和6年度 伊勢市防災会議 議事録

日時：令和7年3月28日（金）10:00～12:00

場所：伊勢市防災センター 4階 防災多目的ホール

出席者：鈴木 健一（伊勢市長）

時岡 利和（国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所事務所長）

横井 宏司（東海農政局三重県拠点地方参事官代理）

寺門 嘉之（鳥羽海上保安部長代理）

稲垣 秀司（津地方気象台長代理）

山口 成大（三重県南勢志摩地域活性化局長）

南 賢（三重県伊勢建設事務所長）

溝口 克志（三重県伊勢保健所副所長兼保健衛生室長）

大野 直司（三重県伊勢農林水産事務所長）

佐波 紀嗣（伊勢警察署長代理）

村松 真行（陸上自衛隊第33普通科連隊重迫撃砲中隊長代理）

福井 敏人（伊勢市副市長）

佐々木 昭人（市立伊勢総合病院事業管理者）

浦井 由紀恵（伊勢市職員）

濱口 昌大（伊勢市教育委員会教育長代理）

堀江 武（伊勢市消防本部消防長）

藪谷 忠昭（伊勢市消防団長）

西出 吉孝（日本郵便株式会社伊勢郵便局長代理）

谷口 幸司（西日本電信電話株式会社三重支店設備部長代理）

藤原 寛仁（三重交通株式会社伊勢営業所長）

辻村 好正（東邦ガスネットワーク株式会社地域計画部 西部計画センター
三重事務所長）

坪井 俊吾（中日本高速道路株式会社名古屋支社 津高速道路事務所 所長）

竜田 和代（伊勢市女性団体連絡協議会長）

新谷 琴江（三重さきもり倶楽部副会長）

池山 文佳（伊勢市消防団本部分団長）

中川 真弓（伊勢市防災コーディネーター運営委員）

事務局：日置 和宏（危機管理部長）

中村 洋（危機管理課課長）

前村 裕紀（危機管理課副参事）

藤原 宏之（防災危機管理係主幹）

五十嵐 大介（防災危機管理係主事）

1 開会

事務局

- ・開会宣言
- ・資料の有無の確認

【会長（市長）挨拶】

- ・市防災行政へのご協力に対する御礼
- ・伊勢市消防団が消防庁長官賞、消防協会の表彰を受けられた。
- ・勢田川の浸水対策として国土交通省の方で、田尻町、一色町にある防潮水門を活用して大雨が降った時に水位を下げる新しい取り組みをしていただくことになった。
- ・伊勢市役所では防災士の資格取得を進めており、着々と防災に関する職員の育成に取り組んでいる。

【司会：事務局→会長】

2 議事事項

「議案第1号 伊勢市地域防災計画の修正について」

【事務局】

- ・伊勢市地域防災計画の修正について説明

概要

【地域防災計画 本編】

南海トラフ地震の発生確率の変更に伴う修正
令和6年能登半島地震への対応を受けた修正

【地域防災計画 資料編】

避難所の指定の変更に伴う修正

「避難行動要支援者避難支援プラン全体計画」の見直しに伴う修正
新たに締結した協定の追加

【会長よりご意見ご質問等の確認】

→ご意見ご質問等なし

【会長より承認・不承認の確認】

→挙手多数のため承認

3 報告事項

(1) 令和6年能登半島地震での活動を踏まえた応援職員受入の要点

- ① 受援が必要となる背景
- ② 令和6年能登半島地震での対応
- ③ 応援職員への権限委譲の要点

【会長】

・おそらく大規模災害が発生すると、民間・行政を問わず、さまざまな受援を受け入れることも少なからずあると思うので、参考にさせていただければと思う。

(2) 各団体の日頃の防災活動と今後の防災活動について

【国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所】

- ・日頃の活動としては、各河川、道路の管理および改修等の整備等の維持管理を実施している。
- ・台風の発生時等には、各エリアの関係機関と連携しながら水位情報を提供している。
- ・勢田川の河口に設置している防潮水門を大幅にアップグレードするなど、インフラ整備の観点でも新しいことを始めようと思っている。

【東海農政局三重県拠点】

- ・災害対応マニュアルを作成しており、地震等による災害発生に備えている。
- ・南海トラフ地震の発生により、業務継続に支障が生じた場合に備えて業務継続計画を作成し、平常時から優先業務の対応方針等を定めている。
- ・例年9月1日の防災の日と11月5日の津波防災の日に防災訓練を実施している。
- ・年に一度、衛星携帯電話及びFAXを用いた通信訓練等も実施している。

【鳥羽海上保安部】

- ・海上における船舶交通の安全確保、災害が発生した時の海難救助、海洋汚染の防止の他、内陸部で発生した災害にも積極的に対応している。
- ・直近では、令和6年能登半島地震と引き続き起きた豪雨災害など、全国各地で起きた自然災害に対して、海上保安庁が持っている巡視船艇、航空機により被災地域に救援物資、あるいは活動される人員の輸送を行っている。

【津地方気象台】

- ・気象庁防災対応支援チーム（JET）を災害発生時等に都道府県及び市町村等に派遣し、市町村の避難等に関する情報の発令に対して気象等の助言を行っている。また、災害現場で活動される関係機関に対して気象解説を行うことで災害被害の防止と軽減、加えて復旧、復興を加速させるといった役割もあり、令和6年能登半島地震にも職員を派遣した。
- ・災害時の取り組みを効果的に行うには、日ごろから防災担当と気象台職員の打ち合わせなど、顔の見える関係の構築が重要なので、引き続き連携の強化に取り組んでいきたい。

【三重県南勢志摩地域活性化局】

- ・救援物資等を保管する広域防災拠点を管理しており、防災活動や救援活動が円滑に進むよう会場保安部や陸上自衛隊と夜間の航空灯火機設置と航空機の離着陸訓練など実施している。
- ・トラック協会と連携し有事の際に救援物資を送り出す訓練を実施している。
- ・地方部での防災活動が円滑に進むよう定期的な防災関係の連絡会議も開催し、顔の見える関係づくりに取り組んでいる。

【三重県伊勢建設事務所】

- ・緊急輸送道路の橋梁の耐震対策や土砂災害を防ぐ法面の対策を行っている。
- ・三重県の県土整備部で自宅の最寄の庁舎に参集して初動体制を確保するための訓練を実施している。
- ・三重県の建設業協会伊勢支部の方々と連携して、国土交通省が提供している防災システムを使った被害状況の共有や通行可能な道路をマップにする訓練を実施している。

【三重県伊勢保健所】

- ・伊勢志摩地域災害保健医療対策会議を設けており、構成期間に参加してもらい情報伝達訓練を実施している。
- ・県外からのDMAT受け入れ、DMAT本部の設置といったところに保健所としてどのように関わっていくかを確認する訓練を実施している。

【三重県伊勢農林水産事務所】

- ・農業用ため池の耐震対策や老朽化対策を実施している。
- ・津波からの浸水被害を軽減するため、海岸保全施設の機能強化や耐震対策、治山施設の整備等に取り組んでいる。

【伊勢警察署】

- ・第2機動隊を組織して、普段から装備品の取り扱いや救助訓練を実施して練度を高めている。

【陸上自衛隊第33普通科連隊重迫撃砲中隊】

- ・普段から速やかに電話による連絡手段を確保する訓練を実施している。
- ・久居から偵察車両を使って部隊の拠点になるところの偵察なども実施していきたい。

【伊勢市消防団】

- ・災害時に要配慮者の安否確認や救助をどのように行うか、民生委員などとの打ち合わせを今後行っていきたい。

【日本郵便株式会社伊勢郵便局】

- ・伊勢市の防災アドバイザーを招いて社員向けの防災講習会を開催している。
- ・伊勢消防署の方を招いた救命救急の講習会を開催している。

【西日本電信電話株式会社三重支店】

- ・南海トラフ地震を想定して、設備を復旧するために各県から広域支援が来ることになっているが、ルールについて改めて整理している。

【三重交通伊勢営業所】

- ・地域との防災連携について引き続き進めていきたい。
- ・南海トラフ地震臨時情報発表時の事前避難対象地域にあるバス停を調査し、改めて見直しを進めている。
- ・指示伝達等、報告も含めた安全確認の訓練を実施している。

【東邦ガスネットワーク株式会社広域導管部三重地域センター】

- ・ガスの供給区域内各地に夜間でも対応員を常駐させて、平常時のガスの維持管理も含めて緊

急時の初動対応を実施している。

- ・道路内のガスの設備の耐震化を進めている。

【中日本高速道路株式会社名古屋支社 津高速道路事務所】

- ・伊勢市内において料金所で防災訓練を年2回実施している。

【伊勢市女性団体連絡協議会】

- ・新型コロナウイルス感染症の流行期に炊き出しの訓練を実施できず、令和6年から再開した。

【三重さきもり倶楽部】

- ・三重県さきもり倶楽部として能登半島の地震・大雨の被災地に赴き様々な活動を行った。

【伊勢市消防団本部】

- ・救命講習を市民に対して実施しており、コロナ前の水準に戻りつつある。
- ・令和6年度は、市民に消防団の活動の理解を深めてもらい、防災意識を高めてもらうため、消防団員がデザインしたLINEスタンプを作成し販売している。

【伊勢市防災コーディネーター】

- ・学校の授業にも参加するなど地道に防災活動を行っており、子どもたちにもわかるよう防災啓発をすすめていきたい。
- ・これからも地道に防災活動を続けていく。

【司会：会長→事務局】

4 閉 会

事務局

- ・閉会宣言